

「産業保健21」79号 産業保健クエスチョン

解 答

解答

Q1：答え ①

- ① 誤→正 平成25年の何らかの所見を有する者の割合は、53.0%で、半数を上回っており、高止まり傾向にあります。また、平成20年以降、50%を超えています。
- ② 正
- ③ 正 また、女性の労働市場への参加が進む中、女性特有のがん（乳がん、子宮頸がん）については、罹患数が多く、女性労働者の職業生活上の大きなリスクとなっているが、診断・治療技術の進歩等により、5年生存率が70%を超えています。

Q2：答え ②

- ① 誤→正 労働者の採用選考を行うに当たっては、応募者の適正・能力を判断する上で真に合理的かつ客観的必要性がある場合を除き、肝炎ウイルス検査を行わない。
- ② 正 また、処遇について他の労働者と異なる扱いをする理由はありません。もとより肝炎ウイルスに感染していることそれ自体は就業禁止や解雇の理由とならないことは言うまでもありません。
肝炎治療のための入院・通院や副作用等で就労できない労働者に対しては、休暇の付与等、特段の配慮が必要です。
- ③ 誤→正 本人の同意なく本人以外の者が不用意に検査受診の有無や結果などを知ることのないよう、プライバシー保護に十分配慮する必要があります。

Q3：答え ③

- ① 正 労働者との定期的な面談等は、就業場所、就業条件、労働環境等を適切に把握するとともに、疾病の再発、重症化等の予防にもつながります。
- ② 正 職場における適切な支援のためには、治療状況や就業上の配慮、今後の見通し等について主治医と情報を共有することが大切です。
- ③ 誤→正 産業保健スタッフは、問題があればすぐに対応できるよう、日頃から管理監督者等との連携を蜜にしておくことが大切です。